

議題1 第2回懇談会（前回）での意見について

- ・「都心風景の未来を先導する」というSRTのデザインを進めていきたいという方向性が示されている。
- ・宇都宮で75年ぶりに新設されたLRT路線がニュースとなった。今回のSRTの議論も、もっと先に進めるという観点から、先導性を売りにしながら、名古屋のまちが変わっていくような内容が込められていると思う。

議題2 デザインの方向性について

■ トータルデザインのコンセプト案

- ・「美しい未来を創造する」とあるが、SRTはこれまで「先導する」という表現が使われてきているので、「創造」よりも「先導」が相応しい。
- ・「美しい未来」を広義的な「美しい」にするのならば、説明を落とし込んで欲しい。「美しい風景」「美しいひと」に、SRTの本質である「美しい移動」を足したい。
- ・「美しい未来」については、具体的な時点を定めるのではなく、まちを魅力的にし、美しい風景を次世代に伝えていく、まちを大切にしていきたいという思いを浸透させるもの。
- ・Riding Labのアピールもデザインに落とし込んでいくのかどうか。

■ 車両エクステリア

- ・今回の提案はSRTのコンセプトに合致したデザインである。
- ・飽きが来ず、先進的なデザインというのを感じられて良い。透明感、車体に風景を映し込ませるとするのは、景観等で頑張りたいという名古屋の方向性が出ている。
- ・どのルートをどう走るのがしっかりと分かる、安心感がある表示が必要。
- ・内装とは逆に、外観については、色褪せないために最先端過ぎてはいけない。
- ・四角い車体でもデザインで流線形に見せる工夫は素晴らしい。いずれ四角が流行になっても塗装だけなので戻せる。(タイヤを隠す)タイヤスパッツのおかげで電車に見える。これが無いと一気に陳腐になる心配もあるので、これは是非実現して欲しい。

■ 車両インテリア

- ・まちの中を移動する舞台のような、エンターテインメント性を導入できるような、また車椅子の収納もしやすい空間づくりが可能なインテリアにして欲しい。

- ・ 尖っていないと（突出したデザインでないと）話題にならない。SNSで情報発信され世界中に情報が出ていく時代なので是非尖って欲しいが、様々な規制を突破するための工夫が必要。
- ・ Riding Labの使い方も想定した内装にしてもらえるとまさに良い。
- ・ カウンターなど尖ったデザインと、道路事情や混雑時の安全性との兼ね合いの調整。

■ 待合空間

- ・ 車両とのデザインバランスは良いが、まちの回遊性への寄与があまり読み取れない。
- ・ デザインだけでなく、猛暑が凌げるなどの居心地の良さが大事。
- ・ 休憩できる空間ができるのは非常に大きいですが、バス停なのか、憩いの場なのか。待ち合いの機能を重視しすぎるとまちとの一体性が失われる。二兎を追う者は一兎をも得ずにならないよう、ニーズと照らし合わせて検証していく必要がある。
- ・ テレワーク等、現在のニーズとしてスタンディングのカウンターがあるとよい。
- ・ 既存のケヤキ並木を活かしたり、ケヤキ並木と一体感の感じられる構造がよい。
- ・ バス待ちの人と休憩の人、どちらも使えることを理解してもらう必要がある。
- ・ バス停と合わせてまちなみ側も連携して先導していくような施策をお願いしたい。

■ その他

- ・ 舗装グラフィック等によりSRTルートを明示してSRTのアイデンティティを表現することをお願いしたい。
- ・ 賑やかになりすぎて憩う空間が憩えなくなる懸念や、待合列の整理、動線誘導ができるデザインであるかどうか。
- ・ 最先端なはずのSRTが、停留所の滞留や現金客への対応などで円滑な運行ができないと全く先端的にならない。最新のDXバス・DXバス停を踏まえて、料金収受、情報提供、ラストワンマイルとの結節などシームレスな移動を実現する必要がある。

議題3 その他～令和5年度の社会実験について～

- ・ デジタル情報板があると一般客からのWi-Fiや充電機能を期待される。また、広告主側からもブラウザへのWi-Fi広告ができて、共に利益になるということも考えられる。